



# NISSHA

## 2020年12月期 第2四半期 決算説明テレフォン・ カンファレンス

2020年8月6日

NISSHA株式会社

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

鈴木順也

## 2020年12月期 第2四半期累計（H1）の実績

IFRS

- COVID-19の影響あるも、営業損失は大幅縮小（為替レート：¥107/\$）
  - 売上高 771億円、営業利益 ▲12億円、税引前利益 ▲11億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益 ▲2億円
  - 希望退職者の募集（収益力強化策の一部）が完了、一時費用20億円を計上（IFRSの営業利益項目）
  - デバイス：製品需要が堅調に推移、コスト改善が進捗
  - 産業資材：COVID-19の影響により、モビリティ向けの製品需要が大幅減少
  - メディカルテクノロジー：COVID-19の影響により、自社ブランドの医療用電極やフェースシールドなどの製品需要が大幅に増加、一方、受託製造（待機的手術用機器）とビジネスメディア（商業向け特殊記録紙）の製品需要が減少

## 2020年12月期 通期の見通し

IFRS

- 通期業績予想を上方修正、営業利益を黒字化（H2想定為替レート：¥105/\$）
  - 売上高 1,660億円、営業利益 15億円、税引前利益 12億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 13億円
  - 収益力強化策をてこに収益性が向上
  - COVID-19の影響：産業資材のモビリティ向け、メディカルテクノロジーの待機的手術用機器、商業向け特殊記録紙などの製品需要は回復基調も完全回復には至らず

## トピックス

- Olympus Surgical Technologies Americaから治療機器事業の製造工場の一部を買収
- 政策保有株式の一部売却を実施（CGコードの実践）

# 2020/12期 H1（6カ月）の実績

売上高は概ね想定通り、営業損失は大幅縮小

(百万円)

	2019/12期 1-6月 (Q2累計) 実績 IFRS	2020/12期 1-6月 (Q2累計) 5月13日 修正予想 IFRS	2020/12期 1-6月 (Q2累計) 実績 IFRS	前年同期比 (2019年 1-6月比)
売上高	74,408	77,000	77,164	+3.7%
産業資材	23,286	23,600	22,413	▲3.7%
デバイス	35,285	39,200	40,590	+15.0%
メディカルテクノロジー	12,285	10,000	10,286	▲16.3%
情報コミュニケーション	3,358	3,500	3,148	▲6.3%
その他	191	700	725	+279.6%
営業利益	▲ 6,351	▲ 4,000	※ ▲ 1,242	-
営業利益率	-8.5%	-5.2%	-1.6%	+6.9pt
税引前利益	▲ 6,726	▲ 4,200	▲ 1,151	-
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	▲ 6,799	▲ 5,200	▲ 245	-
為替レート	¥110/\$	¥107/\$	¥107/\$	

※収益力強化策の一時費用▲20億円含む

# 2020/12期 Q2（3カ月）の実績

COVID-19の影響が顕在化、5月がボトム

※ 収益力強化策（▲20億円）・その他減損（▲6億円）により一時費用  
▲26億円を計上（IFRSの営業利益項目）

（百万円）

	2019/12期 4-6月 (Q2) 実績 IFRS	2020/12期 1-3月 (Q1) 実績 IFRS	2020/12期 4-6月 (Q2) 実績 IFRS	前年同期比 (2019/12期 4-6月比)	前四半期比 (2020/12期 1-3月比)
売上高	37,985	39,474	37,689	▲0.8%	▲4.5%
産業資材	11,771	11,946	10,467	▲11.1%	▲12.4%
デバイス	18,506	19,536	21,053	+13.8%	+7.8%
メディカルテクノロジー	6,139	5,700	4,586	▲25.3%	▲19.5%
情報コミュニケーション	1,470	1,947	1,201	▲18.3%	▲38.3%
その他	96	344	380	+295.8%	+10.5%
営業利益	▲3,893	1,066	※ ▲ 2,308	-	-
営業利益率	-10.2%	2.7%	-6.1%	+4.1pt	-8.8pt
税引前利益	▲ 4,021	1,060	▲ 2,212	-	-
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	▲ 3,842	860	▲ 1,106	-	-
為替レート	¥110/\$	¥108/\$	¥106/\$		

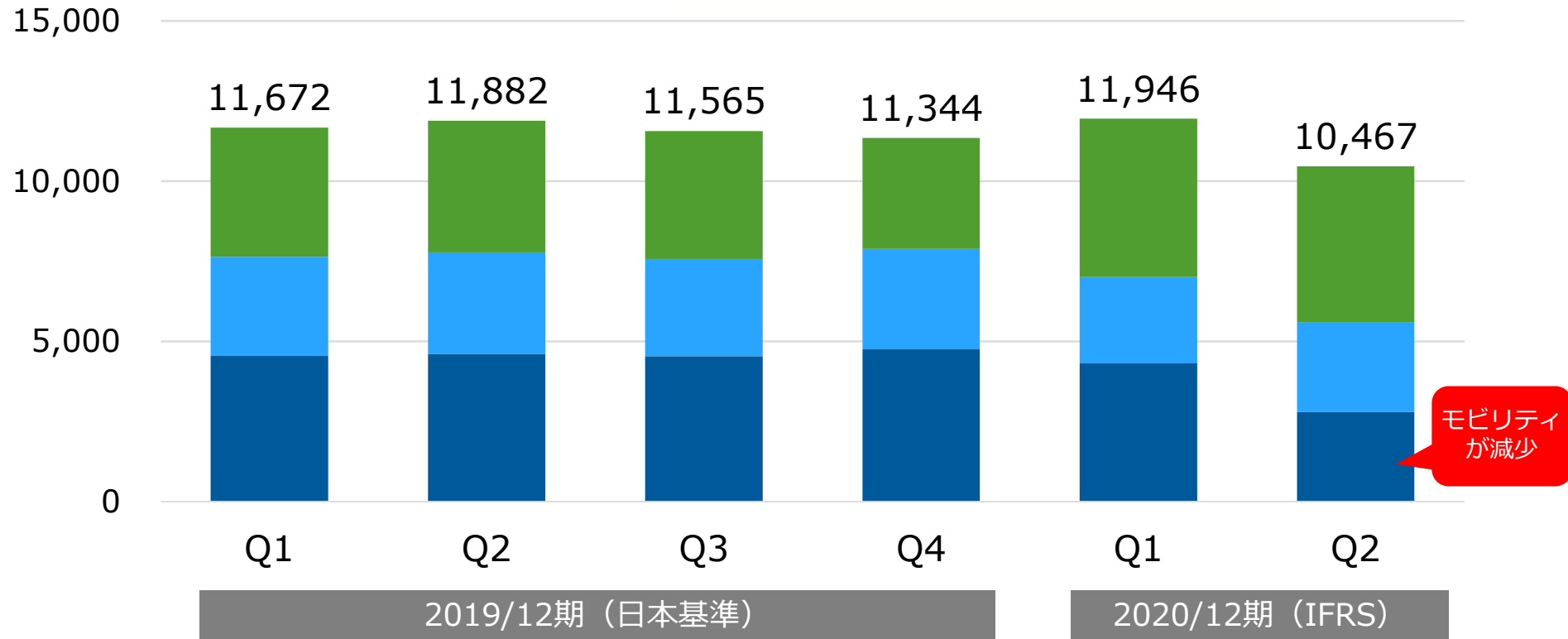
# 産業資材

COVID-19の影響により、モビリティ向けの製品需要が悪化  
5月を底に回復基調

用途別売上高（四半期）

- サステナブルパッケージ資材（蒸着紙）
- 加飾（その他分野）
- 加飾（モビリティ（自動車・輸送機器）分野）

（百万円）



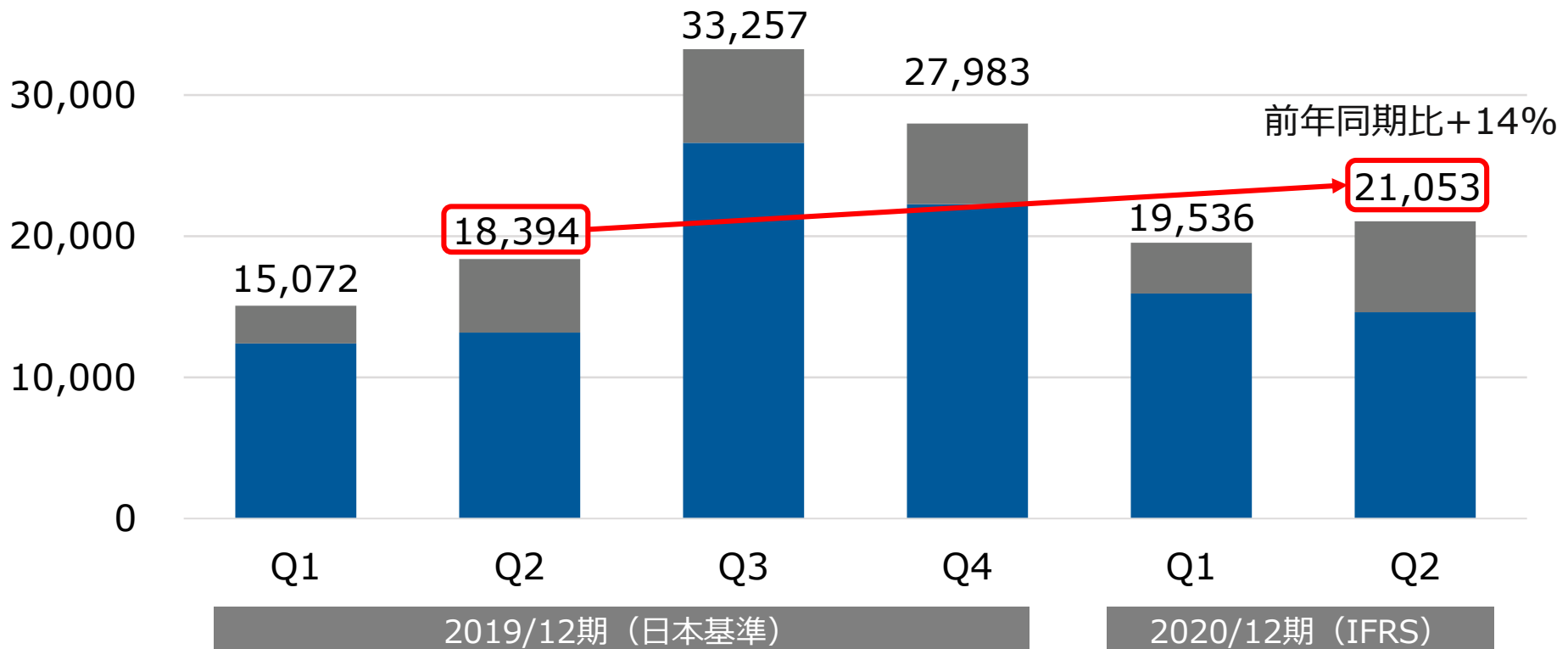
# デバイス

タブレット、ゲーム機、産業用端末（物流関連）の製品需要が堅調

用途別売上高（四半期）

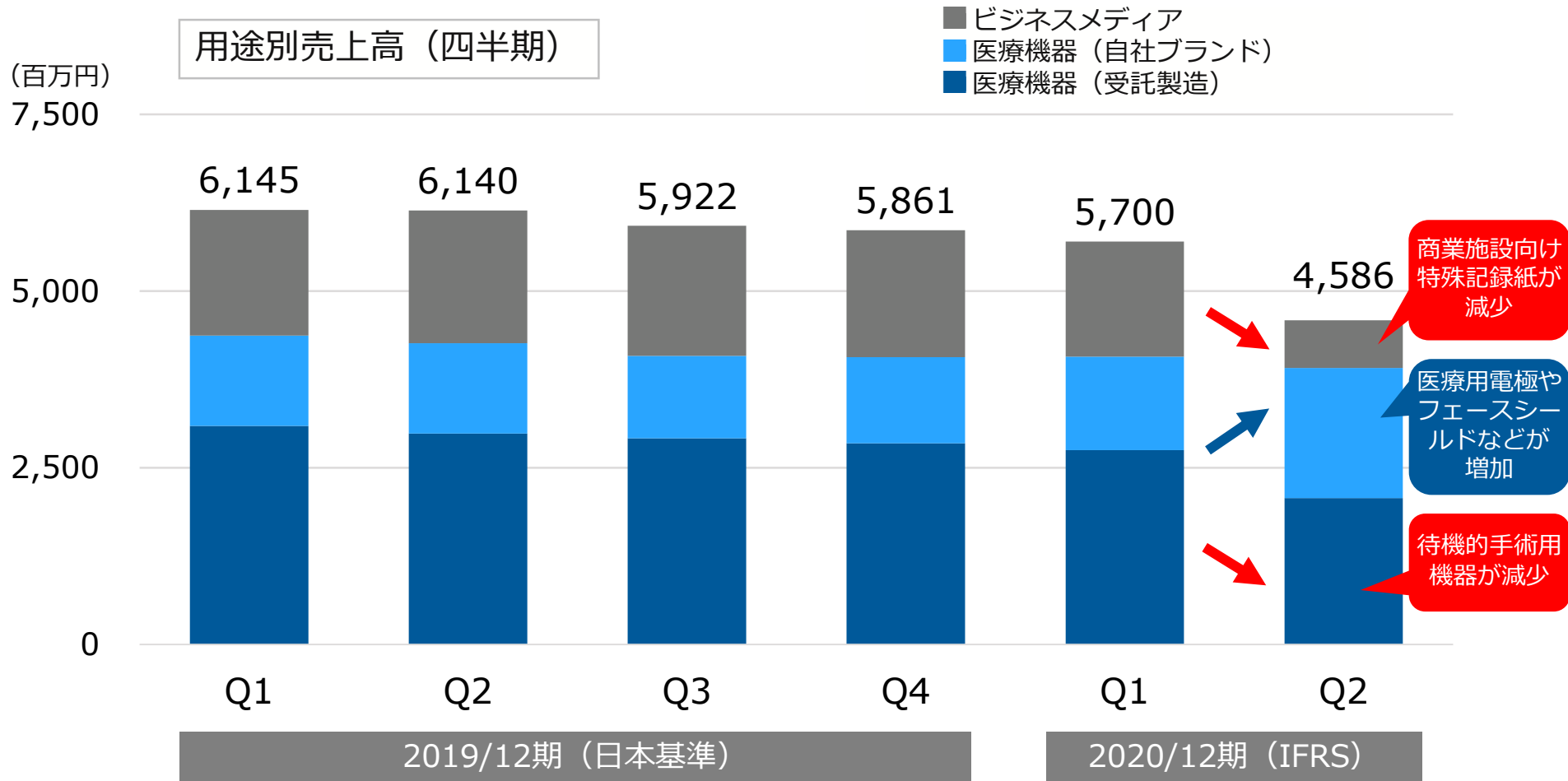
- ゲーム機・産業用端末（物流関連）・モビリティ（自動車・輸送機器）向け、ガスセンサーなど
- スマートフォン・タブレット向けなど

(百万円)  
40,000



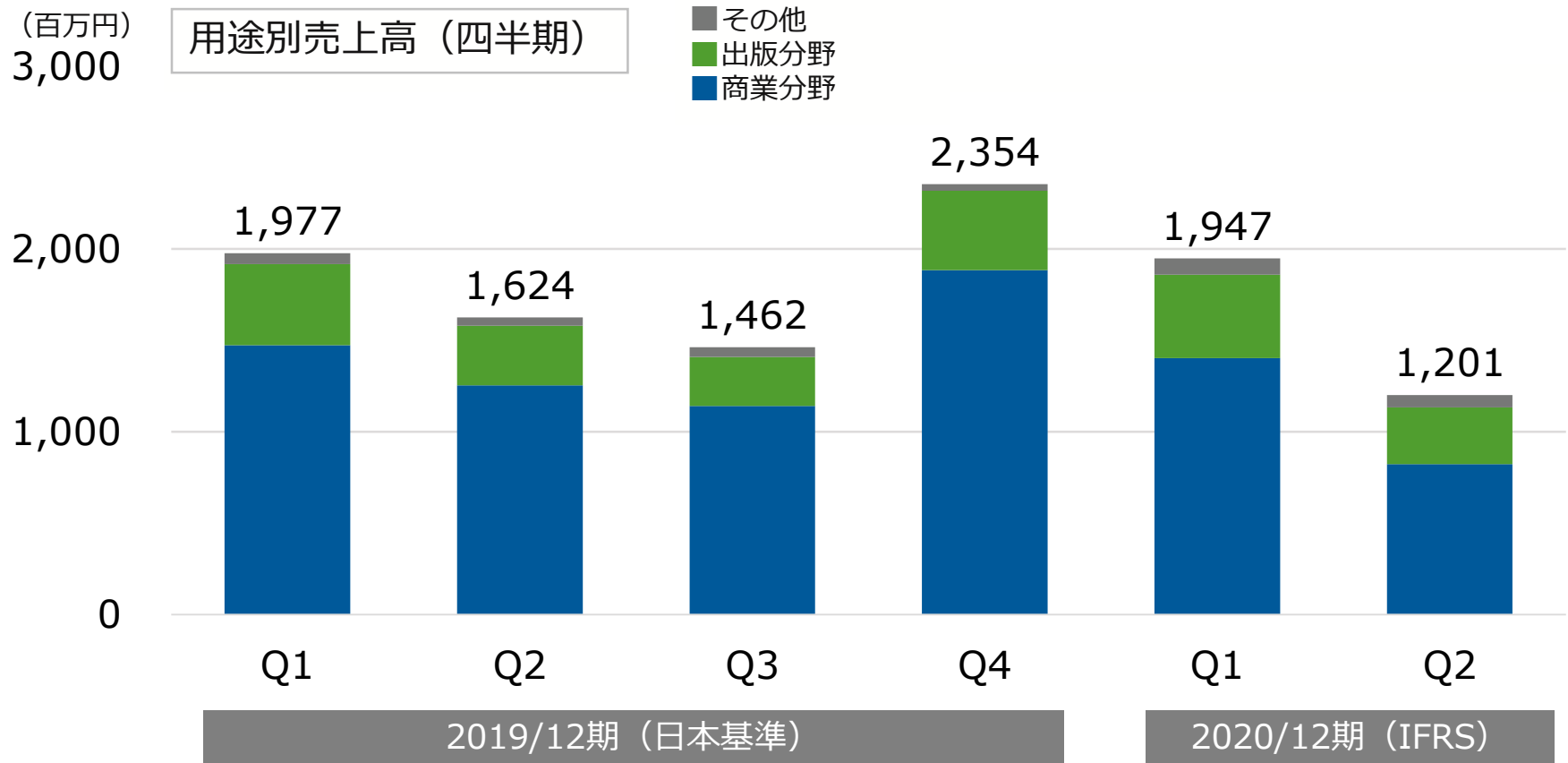
# メディカルテクノロジー

COVID-19の影響により、自社ブランドの製品需要が急増  
受託製造、ビジネスメディアの製品需要は減少



# 情報コミュニケーション








COVID-19の影響により、商業分野の製品需要が減少





# H2に向けての需要見通し（H1比）

COVID-19の影響による製品需要はQ2が底、Q3以降は回復に転じる見通し

事業部	製品	主な市場	H1 → H2 トレンド	
デバイス	フィルムタッチセンサー	スマートフォン		2020年モデルの量産開始により需要が増加
		タブレット・ゲーム機		力強い需要が継続
産業資材	加飾	モビリティ		COVID-19の影響は継続するも、需要は回復
		家電		H1からCOVID-19の影響は限定的
	蒸着紙	飲料・食料品のラベル・パッケージ向け		需要は安定的に推移（北米・南米は弱い）
メディカルテクノロジー	医療機器	医療機器		COVID-19の影響は継続するも、待機的手術用機器の需要が回復
	ビジネスメディア	商業施設向け		COVID-19の影響は継続するも、需要は回復

## 業績予想の変更

## 上方修正、通期で営業利益を黒字化

(百万円)

	前回予想 (5/13発表)			今回予想 (8/6発表)		
	2020/12期 通期 (1月-12月) 予想	2020/12期 H1 (1月-6月) 予想	2020/12期 H2 (7月-12月) 予想	2020/12期 通期 (1月-12月) 予想	2020/12期 H1 (1月-6月) 実績	2020/12期 H2 (7月-12月) 予想
売上高	166,000	77,000	89,000	166,000	77,164	88,836
産業資材	-	23,600	-	47,400	22,413	24,987
デバイス	-	39,200	-	88,700	40,590	48,110
メディカルテクノロジー	-	10,000	-	21,000	10,286	10,714
情報コミュニケーション	-	3,500	-	7,300	3,148	4,152
その他	-	700	-	1,600	725	875
営業利益	▲ 2,000	▲ 4,000	2,000	1,500	▲ 1,242	2,742
営業利益率	-1.2%	-5.2%	2.2%	0.9%	-1.6%	3.1%
産業資材	-	▲ 1,300	-	▲ 500	▲ 727	227
デバイス	-	▲ 900	-	4,700	1,116	3,584
メディカルテクノロジー	-	200	-	800	360	440
情報コミュニケーション	-	▲ 50	-	0	▲ 98	98
その他	-	▲ 1,950	-	▲ 3,500	▲ 1,892	▲ 1,608
税引前利益	▲ 2,700	▲ 4,200	1,500	1,200	▲ 1,151	2,351
親会社の所有者に帰属する 当期 (四半期) 利益	▲ 3,500	▲ 5,200	1,700	1,300	▲ 245	1,545
為替レート	¥105/\$	¥107/\$	¥105/\$	¥106/\$	¥107/\$	¥105/\$

# 資金調達・投資計画・株主還元

## 資金調達

- 銀行借入：運転資金借入枠の増額（2019年度に対応済み）
- 社債発行枠（300億円）を確保済み
- 政策保有株式の一部売却を完了（売却益約61億円、2020年6月）✓

## 投資計画

- M&A投資：45億円
  - メディカルテクノロジー事業で資産買収 ✓
  - その他
- 設備投資：80億円
  - 2020年のキャッシュアウトは60億円の見込み

## 株主還元

- 中間配当15円（前年同期と同額）✓
- 期末配当15円（予想、前期の期末配当には創業90周年記念配当5円を含む）

# 第6次中期経営計画の進捗 (2018-2020)

# 中期ビジョン： バランス経営の完成 ITと非ITのバランスを実現する

## IT

- 収益性・効率性の維持・追求

IT



## 非IT

- 成長戦略の実行

✓ モビリティ  
(自動車)



✓ 医療機器



サステナブル  
パッケージ資材

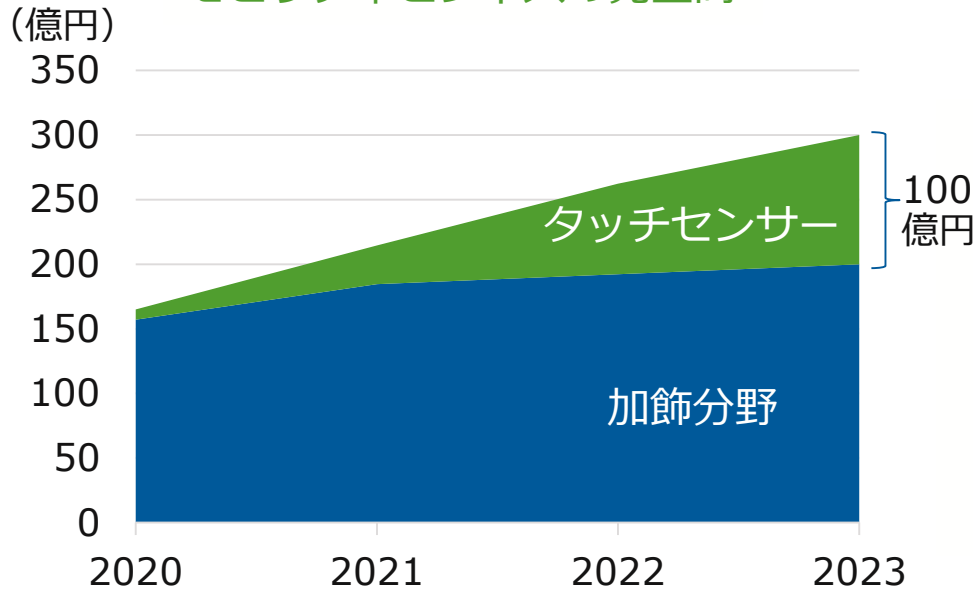


# 車載ディスプレイ用フィルムタッチセンサー 2023年に100億円規模まで成長

車載ディスプレイ市場は拡大が継続

- 1台当りの搭載数の増加
- 画面サイズの大型化

モビリティビジネスの売上高



当社のフィルムタッチセンサーの特長  
車載ディスプレイのニーズに合致

- OLED・LCDいずれにも対応
- 高い光学特性による視認性の向上
- 大画面・異形・曲面对応

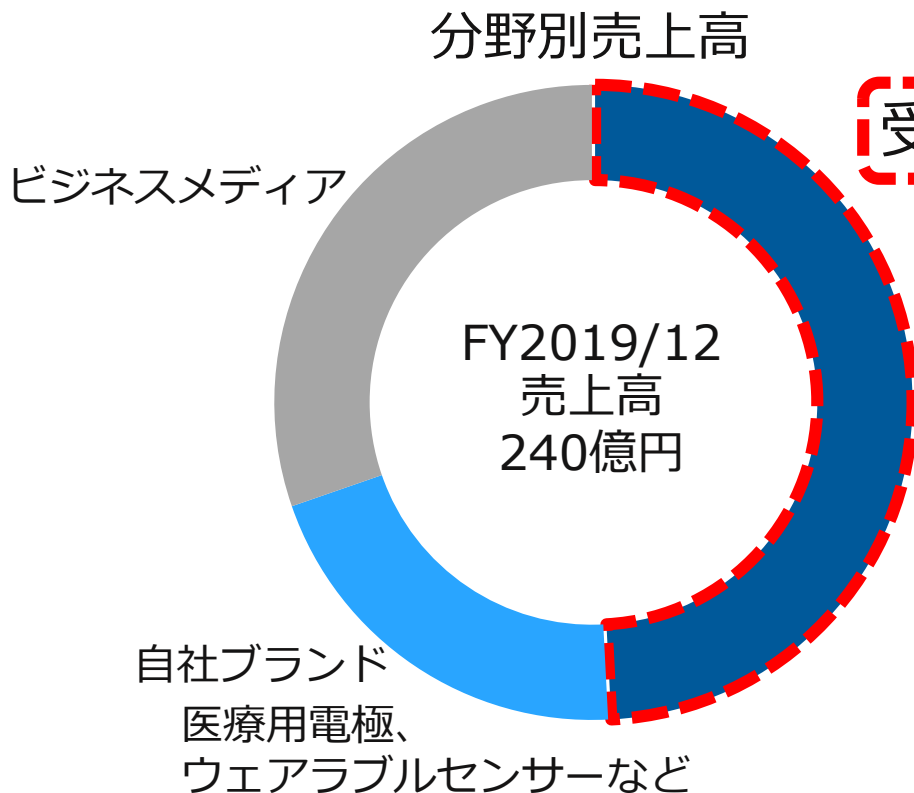


# メディカルテクノロジー事業

## Olympus Surgical Technologies America (OSTA) から治療機器事業の製造工場の一部を買収



# メディカルテクノロジー事業 受託製造が成長を牽引



受託製造

CAGR 23.2%  
(2017~2019)

**NISSHA**

MEDICAL TECHNOLOGIES

DESIGN &  
MANUFACTURING

本社：ニューヨーク州バッファロー

## 主な製品事例

特徴：心疾患向けの低侵襲、  
シングルユース機器

手術用機器

カテーテルガイドワイヤ





# Olympus Surgical Technologies America (OSTA) から治療機器事業の製造工場の一部を買収

事業内容	治療機器事業の部品および一部の製品（硬性鏡、エネルギーデバイスなど）の製造
対象拠点	オハイオ州ノーウォーク
社員数	111人（2020年4月末現在）

## 【買収スキーム】

**NISSHA**  
MEDICAL TECHNOLOGIES | DESIGN & MANUFACTURING

資産買収

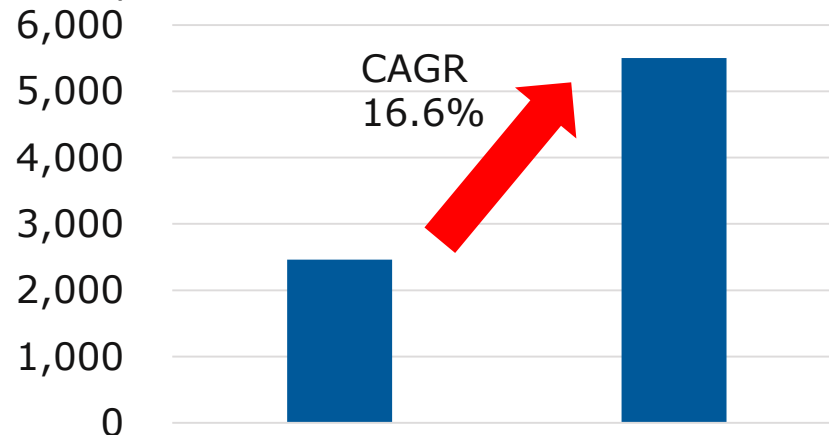
**OLYMPUS**

オハイオ州ノーウォーク  
工場・設備  
人員  
生産技術

※ 買収完了は  
2020年第4四半期を予定

## 【買収した事業の成長見通し】

(百万円)

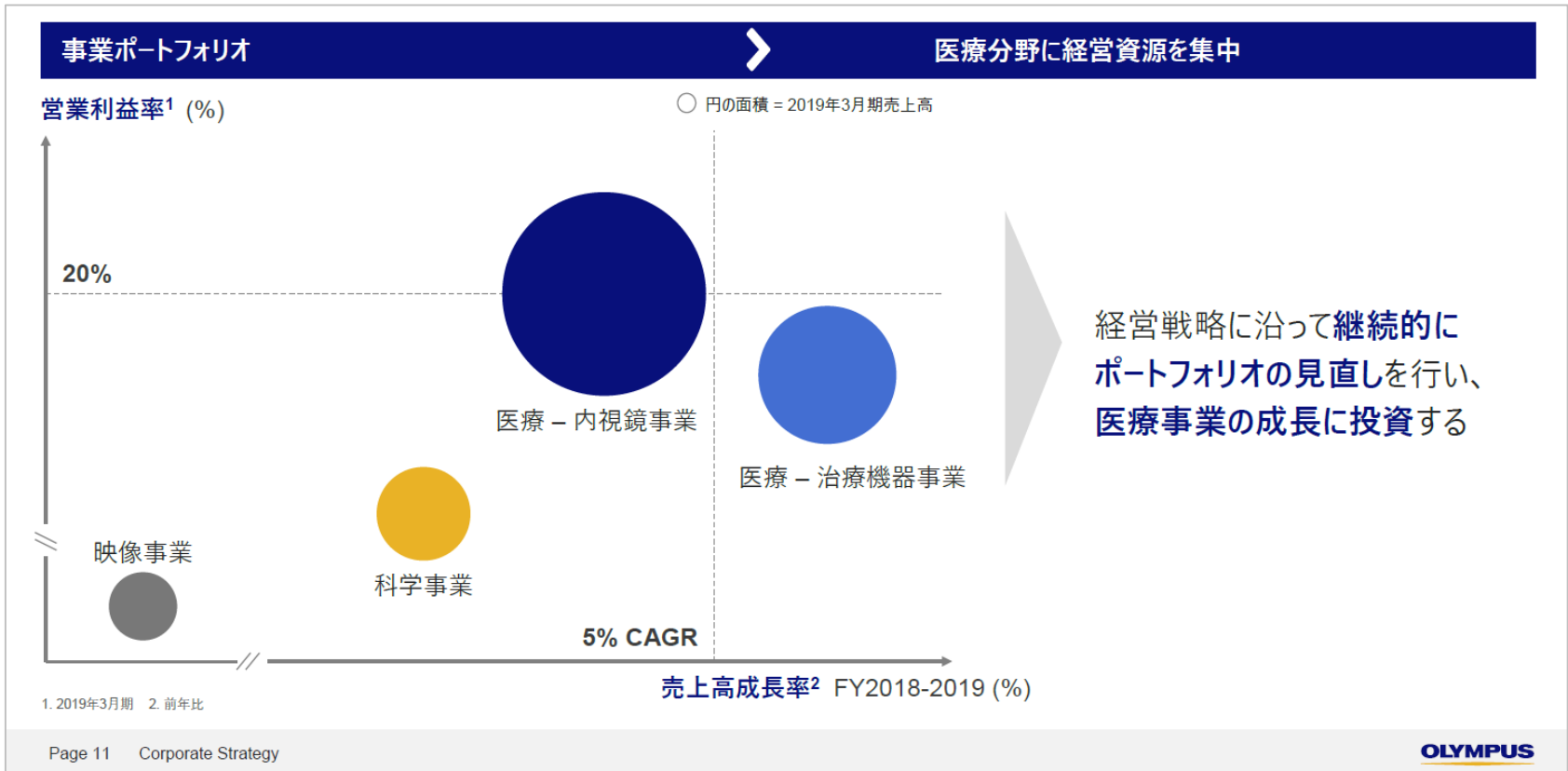


2019実績

成長見通し  
(2025年)

# オリンパスは医療分野に注力、 治療機器事業は高成長

オリンパスの事業ポートフォリオ（オリンパス経営戦略説明会資料より抜粋）



引用元: [https://www.olympus.co.jp/ir/data/pdf/corporate\\_strategy\\_20191106.pdf](https://www.olympus.co.jp/ir/data/pdf/corporate_strategy_20191106.pdf)

- 医療 - 治療機器事業は2020～ CAGR8%
  - グローバル事業統括機能は米国に配置
  - ノーウォークは主力製造拠点のひとつ
  - 低侵襲・シングルユース機器を中心に展開

# 同社の治療機器事業における部品および一部の製品の製造能力を獲得

## 製品事例

### 硬性鏡

(泌尿器科向け)

低侵襲



### 結石粉碎装置部品

(泌尿器科向け)

低侵襲



エネルギーデバイス部品  
(内視鏡下外科手術向け)

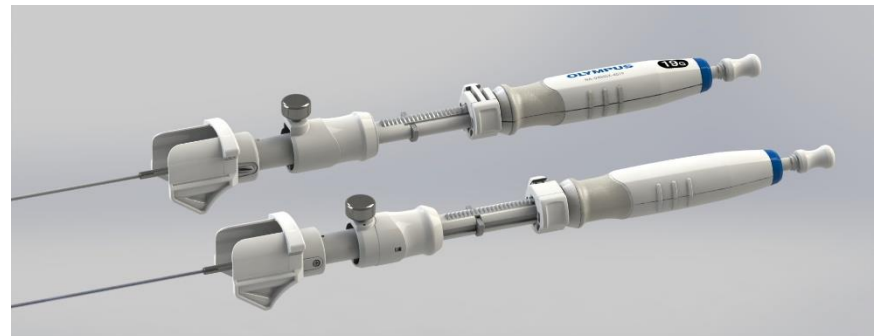
低侵襲・  
シングルユース



ディスポーザブル吸引生検針部品

(呼吸器科向け)

低侵襲・シングルユース



## 治療機器分野での主力サプライヤーの地位を確立

### 1. オリンパス治療機器事業向けのサプライヤーとして成長

部品および一部の製品製造・供給

**NISSHA**

- ノーウォーク拠点の資産を買収

組立・販売

**OSTA**

2. 大手グローバルメーカーからの受注を加速（北米）
3. 次世代の医療の発展に貢献



低侵襲医療向けの機器の価値向上



ロボット支援手術



遠隔医療

# シナジーによる成長

オリンパスから獲得した医療用デバイスの  
製造資産・ノウハウ

治療機器分野での  
主力サプライヤーの地位を確立

**NISSHA**  
MEDICAL TECHNOLOGIES | DESIGN &  
MANUFACTURING

Nissha Medical Technologiesの  
受託製造の販路とケイパビリティ  
(設計・開発・製造)

**NISSHA**

NISSHAグループの技術資産  
(成形・金属加工)

# ご参考：設備投資・減価償却費及び償却費・ M&A投資・研究開発費

(百万円)

	第1四半期 (1-3月) 実績	第2四半期 (4-6月) 実績
設備投資	1,435	1,041
減価償却費 及び償却費	2,074	2,076
M&A投資	1,431	213
研究開発費	671	706

本プレゼンテーションに掲載されている情報および決算説明会・カンファレンスで提供される情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性があります。